

# 企業経営研究 【昼】

担当者名  
/Instructor

王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次  
/Year

単位  
/Credits

2単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

講義

クラス  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○						

## 授業の概要 /Course Description

国際経営比較の観点から、多国籍企業の経営国際化の背後にある論理を探りながら、特に東アジア新興工業国の持続的高成長を牽引してきたアジア財閥系企業を対象に、その経営構造を押さえた上、経営国際化の特徴の分析にウェイトを置く。深い相互依存関係にある東アジア地域の経済発展のダイナミズムを日本の地域経済活性化のために如何に取り込み、活かすかとの問題意識を持ちながら、フィールドワークを続けてきたが、研究成果物の参考文献としての使用と共に、現地調査で得た一次資料や情報を共有する考えである。聴講者の皆さんにも同様の姿勢で臨んで頂き、深い洞察力と分析力を養っていききたい。授業計画に従って、討議形式で進める。

到達目標は以下にあげておく。

《高度な専門的知識・技能》

○地域社会の担い手である企業の経営構造に関する基礎的専門的知識を学ぶ。

《高い問題解決能力と表現力》

○地域社会の活性化と問題解決のために学んだ知識を活用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

## 教科書 /Textbooks

院生と協議して決める

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

岩崎育夫著 『現在アジア政治経済学入門』 東洋経済  
 牧戸孝郎編著 『岐路に立つ韓国企業経営』 名古屋大学出版会  
 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社  
 王効平他著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会  
 久保巖著 『世界財閥マップ』 平凡社  
 末廣昭著 『アジアのファミリービジネス』 名古屋大学出版会  
 末廣昭著 『キャッチアップ型工業化論』 名古屋大学出版会  
 王効平が参画してきた調査研究プロジェクトの報告書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講院生の研究テーマ・関心領域の確認、本科目の狙い、進捗方法に関する説明、テキストの決定
- 第2回 アジア型企業経営に関する概説
- 第3回 企業制度分析の視点
- 第4回 経営システム分析の視点
- 第5回 地域上場企業の分類・整理
- 第6回 韓国財閥系企業の経営制度
- 第7回 韓国系企業の経営システム
- 第8回 華人財閥系企業の経営制度
- 第9回 華人財閥系企業の経営システム
- 第10回 日本の同族企業の経営制度
- 第11回 日本の同族企業の経営システム
- 第12回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論I
- 第13回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論II
- 第14回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論III
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回用の必読資料を事前に指定する予定  
 学習支援フォルダーを積極的に活用すること

# 企業経営研究【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

指定参考文献・配布資料を熟読すること  
各種関連資料を進んで収集すること  
問題意識をもち、それを討議に反映させること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

通常少人数参加のため、ゼミ形式で進める予定で、長時間発表の心の準備をして頂きたい  
研究者としての個性、強みを存分に出して頂きたい

## キーワード /Keywords

## 都市情報工学研究【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 経営情報学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

## 授業の概要 /Course Description

現代社会では、氾濫する情報の中で予測が難しいものになりつつあります。情報の不確実な性質を論じ、その中で経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考えます。本演習では、ファジイ関係表現をもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析します。

《高度な専門的知識・技能》

経済や経営の観点から、データを分析しそれに基づいて適正に判断できる。

《高い問題解決能力と表現力》

経営的意思決定において自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり図表を作ることができる。先行研究を第三者の観点でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

- S.M.Ross 'Introduction to Probability Models', Academic Press
- G.J.Klir & Bo Yuan 'Fuzzy Systems and Fuzzy Logic: Theory and Application', Prentice Hall

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 情報に関する不確実性【蓋然性、偶然性】【あいまい性】【不確実性と不確定性】
- 2 回 同上
- 3 回 時系列の情報システムにおける不確実性【確率過程】【ファジイ・システム】【複雑系システム】
- 4 回 同上
- 5 回 不確実性を伴うシステムの数理的表現【マルコフ過程】【ファジイ推論システム】【カオス・システム】
- 6 回 同上
- 7 回 不確実性環境下での個人やグループ全体としての意思決定の方法【効用理論】【可能性理論】【必然性理論】
- 7 回 同上
- 9 回 客観的数理的評価法と主観的数理的評価法【平均評価】【積分評価】【主観的積分評価】【順序付け法】【多目的評価法】
- 1 0 回 同上
- 1 1 回 不確実性環境下での時間を伴う意思決定の方法【動的計画法】【最適性の原理】【マルチンゲール法】
- 1 2 回 同上
- 1 3 回 数理工学的計算法【差分近似法】【モンテカルロ・シミュレーション】【変分法】
- 1 4 回 同上
- 1 5 回 不確実環境での人工知能的意思決定法【preferences】【aggregation】【学習モデル】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか(70%)と期末レポート(30%)。シラバスの達成目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、指定された範囲の予習(60分)と授業内容の復習(60分)を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

[事前・事後学習の内容]

授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までにまとめておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

不確実性、意思決定法

# 地域臨床教育研究【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、以下の到達目標に基づき、授業を進めていきたい。

《高度な専門的知識・技能》

地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題に関する基礎的知識と子育て支援や青少年問題に実践的に取り組むために求められる技能を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題と子育て支援や青少年問題を解決する能力を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題に関する基礎的知識と子育て支援や青少年問題に実践的に取り組むために求められる技能を修得する。

また、その目標を実現していくために、本授業では、1. 児童虐待問題への理解と援助・介入について、2. 知的障害、「発達障害」を持つ子ども・青年への自立支援、3. 現代社会における青少年問題の発生機序とその克服に向けての援助・介入について、などのテーマについて、参加者の実践フィールドや興味・関心に合わせて検討を進めていく。

## 教科書 /Textbooks

テキスト等については、参加者と相談して決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献については授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読
- 3回 文献購読
- 4回 文献購読
- 5回 文献購読
- 6回 文献購読
- 7回 文献購読
- 8回 文献購読
- 9回 個人研究発表
- 10回 個人研究発表
- 11回 個人研究発表
- 12回 事例報告
- 13回 事例報告
- 14回 事例報告
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加者の報告と意見交流、また、博士論文構想の検討を通して、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

購読文献については必ず事前に読み込み、疑問点などを明確にしておくこと

## 履修上の注意 /Remarks

実践現場におられる方は是非とも事例・実践報告の準備をお願いしたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

青少年問題の発生機序、児童虐待問題、発達障害・知的障害

# 地域産業集積研究【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

## 授業の概要 /Course Description

産業集積に関するテキスト、論文等を輪読してゆく。テキスト、論文等に基づき、報告とディスカッションを中心として授業を進めることとする。学生は、この講義を通して、産業集積やクラスターの理論と実態について系統的に学習することができます。授業の到達目標は以下の通りです。

- ① 立地論および集積論の基礎的知識を身に付け、関連する書籍を理解できるようになる。
- ② 現実の集積の成り立ちを立地論を用いて体系的に理解し、その将来像を判断する技能を身に付けることができる。
- ③ 集積地の現状について自律的に研究し、その政策的対応について提言できるコミュニケーション力を持つこと。

## 教科書 /Textbooks

各回ごとに、いくつかの論文を詳しく紹介し、輪読することとする。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 基礎的集積理論の習得 ( 1 ) ウェーバーの集積論 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 3回 基礎的集積理論の習得 ( 2 ) クリスタラーの集積論 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 4回 基礎的集積理論の習得 ( 3 ) レッシュの集積論 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 5回 基礎的集積理論の習得 ( 4 ) フーバーの集積論 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 6回 基礎的集積理論の習得 ( 5 ) スコットの集積論 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 7回 基礎的集積理論の習得 ( 6 ) ポーターの集積論 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 8回 基礎的集積理論の習得 ( 7 ) マークセン他の集積論 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 9回 基礎的集積理論の習得 ( 8 ) クルーグマンの集積論 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 10回 現代的集積理論の応用 ( 1 ) 素材型産業の集積 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 11回 現代的集積理論の応用 ( 2 ) 組立型産業の集積 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 12回 現代的集積理論の応用 ( 3 ) 地場産業の集積 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 13回 現代的集積理論の応用 ( 4 ) 都市集積 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 14回 現代的集積理論の応用 ( 5 ) 研究学園都市 ( 予 : 60分、復 : 60分 )
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・ 10% 課題・・・ 90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として各回のテーマに関する対応箇所に関わる論文、経済記事等に目を通しておくこと。また事後学習として、授業で指摘された課題について積極的に学習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

過去において、産業論、立地論、地域経済論などを学習した経験があること。  
学部で開講している経済地理学I、II、特講等もしくはそれと同等の内容の講義を過去に履修していることが必須である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の基礎力をもとに、現実の集積が理解できる水準になることをめざす。

## キーワード /Keywords

産業集積、クラスター、競争優位、価値連鎖

# 都市環境政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境生命工学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

## 授業の概要 /Course Description

北九州市をはじめとする日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するアジア等の諸国の先行モデルとして高い移転可能性を持つと言える。途上国の諸都市がそれぞれの置かれた状況を踏まえ、日本の環境対策の成功と失敗の経験を教訓として活かしていくことができれば、日本がかつて経験したような深刻な公害問題を回避することが可能である。さらに、後発性の有利さを活かすことによって、今後、効率的な環境対策の実施を行うことも可能である。そこで、環境問題の発生メカニズムとその対策について、日本及びアジアの諸都市の比較研究を行う。さらにアジアを中心とした途上国への移転可能性について考察する。

- 《高度な専門的知識・技能》
- 都市の環境管理・改善に必要な政策に関する専門知識を修得する。
- 《高い問題解決能力と表現力》
- 都市環境問題に関わる現実の諸問題を解決する能力を修得する。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 勝原健『東アジアの開発と環境問題：日本の地方都市の経験と新たな挑戦』勁草書房
- 土木学会環境システム委員会編『環境システム』共立出版
- 日本の大気汚染経験検討委員会編『日本の大気汚染経験』ジャパンタイムス
- 日本水環境学会編『日本の水環境行政』ぎょうせい
- 『Environmental Performance Reviews: Japan』OECD
- 『Future Cities: Dynamics and Sustainability』Kluwer Academic Publishers
- ほか多数 ( 講義中に指示する )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1～3回 日本の公害対策経験と北九州モデル
- 第4～6回 東アジア都市の都市環境管理の比較と北九州モデルの適用可能性
- 第7～9回 都市環境管理の方向と評価基盤
- 第10～12回 新たな都市環境政策の潮流
- 第13～14回 事例研究
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。
- 積極的な参加 20%
- 事例報告及び討論 30%
- 期末レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを授業の事前事後に学習し、準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

各回授業で配付するレジュメをよく読み込んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

公害対策、環境計画、都市環境マネジメント、低炭素・循環型社会

## 都市政策論研究【昼】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

## 授業の概要 /Course Description

本講義のテーマは「都市政策の経済分析」であり、そのねらいは都市経済学の紹介と都市政策の分析・評価を試みることにある。したがって、その個別具体的な内容として「都市がなぜ存在するのか」という基本問題に対する経済理論的な解明に加えて、「市場の失敗」や「政府の失敗」についての基礎的理解を深める。また、その応用として各種の都市政策、例えば土地問題、住宅問題、都市財政、都市交通、環境問題等に着目し、その有効範囲と限界について考察する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

都市政策に関する理論・分析手法・実践に係わる専門的知識を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

都市政策に係わる実際の課題を抽出・分析し、実践的な政策提言に繋げることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

都市政策に関わる倫理的な側面に深い理解を持ち、自ら政策分析を行い提言をまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する（英文図書の場合もあり）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Philip McCann, Modern Urban and Regional Economics, Oxford University Press (2013)

金本良嗣・蓮池勝人・藤原徹著『政策評価ミクロモデル』東洋経済新報社（2006）

上田考行編著『Excelで学ぶ地域・都市経済分析』コロナ社(2010)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 Introduction and Industrial Location
- 3回 Spatial Distribution of Activities
- 4回 Spatial Structure of the Urban Economy
- 5回 Urban Policy Analysis
- 6回 Advanced Topics on Urban Economic Analysis
- 7回 Regional Specialization and Trade I
- 8回 Regional Specialization and Trade II
- 9回 Regional Specialization and Trade III
- 10回 Term Paper Topics Presentation and Discussion
- 11回 Labor Market Analysis
- 12回 Regional Growth
- 13回 Regional Policy Analysis
- 14回 Advanced Topics on Regional Economic Analysis
- 15回 Term Paper Presentation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内討論、20%：期末レポート発表、30%：期末レポートの内容、50% に基づいてシラバスの到達目標の達成度を加味して評価を行う

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当該授業に指定されている論文・書籍の十分な理解はもとより、自ら関連する項目について調べる。授業後は、授業内容の深い理解に努めるとともに、もし不明点があればそれを整理し自ら調べる。

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識は必須、および微分積分と線形代数、計量経済学の知識を前提とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

都市・地域の計量経済分析を理論・手法・実際の側面から学習する。広範な知識と興味があれば都市や地域を多くの側面から分析することが可能となる。

## キーワード /Keywords

都市経済学、地域経済学、地域科学、都市政策

# 都市社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

## 授業の概要 /Course Description

文献レビュー（テキスト批評）を通して、都市社会学の理論と分析方法について理解を深める。  
 文献は、なるべく受講生の専門にそつよう配慮する。  
 なお、授業は演習形式も交えて行う。

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門知識・技能 >

都市社会学に関する概念や理論枠組について理解することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

都市における社会現象について、自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

自らの興味関心に即して文献を調べレポートを作成できる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

文献リストを用意し、最初の授業で決定する。なるべく受講生の研究領域・テーマ・関心にそつたものを選ぶ。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 目的・進め方・テキストの選定
- 第2回 都市社会学の理論的潮流
- 第3回 テキスト批評
- 第4回 テキスト批評
- 第5回 テキスト批評
- 第6回 テキスト批評
- 第7回 テキスト批評
- 第8回 テキスト批評
- 第9回 テキスト批評
- 第10回 テキスト批評
- 第11回 テキスト批評
- 第12回 テキスト批評
- 第13回 テキスト批評
- 第14回 テキスト批評
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート（70%）と授業の事前・事後学習が授業への取り組みにどの程度反映されているか（30%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献を事前に読んでおくこと。（必要な学習時間の目安は、120分以上。）

受講者（報告者）は、自分が紹介する文献について（1）概要、（2）内容要約、（3）論点の整理、（4）議論を記したレジユメを用意すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 地域社会演習 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 他 各研究指導教員

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

**授業の概要 /Course Description**  
 地域社会分野に関する個別具体の研究テーマを、履修学生と相談した上で決定する。ただし、一旦決定された個別具体の研究テーマについては、その後の変更は認めないので、履修学生の問題意識について、予め可能な限り明確にしておくことが望まれる。また、本演習の進め方として、履修学生の自主的な問題意識を解明することに寄与し得る柔軟かつ論理整合的思考方式の修得を、その第一義的な目的とする。したがって、学位論文の作成を視野に入れた講読、調査報告、研究発表などを行う。

**教科書 /Textbooks**  
 必要に応じて、個別具体的に指示する。

**参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )**  
 必要に応じて、個別具体的に指示する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**  
 1～15回  
 履修学生の理解度に配慮しつつ、履修学生の問題意識に応じたReading Assignmentを課す。

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**  
 履修学生の理解度に配慮しつつ、履修学生の問題意識に応じたReading Assignmentを課す。( 必要な学習時間の目安は、120分以上。 )

**履修上の注意 /Remarks**

**担当者からのメッセージ /Message from the Instructor**

**キーワード /Keywords**

# 社会心理研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

## 授業の概要 /Course Description

社会心理学的に研究するために必要な体系的な知識や研究方法の枠組みを提供し、人間関係の様々な問題に共通して関わる基礎的な機制を議論する。現代社会において研究の対象となる現象は幅広いが、中でも特に、個人内の心理過程でアイデンティティや自己観との関わりから生じる様々な葛藤が、対人関係、集団行動等の中でどのように顕在化するか、また、そのような葛藤を解決させるために生じる個人の行動が、対人関係や集団行動等にどのような変化を起こしうるのか、というテーマを中心とする。社会心理の基礎理論に重点を置きつつも、受講生各自の研究テーマの発展に寄与するよう考慮した授業とする。

DPに基づく到達目標

( 高度な専門的知識・技能 )

社会心理学の研究法の主な特徴と社会心理学の複数の研究群の内容を理解している。

( 高い問題解決能力と表現力 )

各受講生が関心を持つ地域社会におけるある特定の課題との関連を理解し、説明できる。

( 高い倫理観に基づいた自律的行動力 )

受け身ではなく主体的に学び、議論に参加する。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回オリエンテーション

2 回～ 1 4 回文献の紹介、もしくは自身が進めている研究についての発表

1 5 回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告とディスカッション...100% によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地域イノベーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

## 授業の概要 /Course Description

わが国経済のグローバル化と地方分権化、いわゆるグローバル化が進展する中であって、地域の果たす役割はこれまで以上に大きくなってきている。地域は中央政府による外発的な支援に期待することなく、自らの地域に蓄積する多様な資源及び特性を活用した内発的な発展を志向していかなければならない。この内発的な発展に向けた方策の一つに、“イノベーションの振興”がある。以下の2つの問題意識のもと、講義を行っていきたい。

一つ目は「どのようにしたら地域においてイノベーションが促進されるのか。これまで各地域で展開されてきた産業支援機関の整備や支援制度の充実がほぼやり尽くされた感があり、今一度原点に戻って、その構造解明を図り、方策を講じる必要があるのではなかろうか」というイノベーション構造に起因するもの。

二つ目は「地域には拠点となる都市が散在し、それぞれが県域等の中心になって地域の発展をリードしている。これらの都市が特徴を活かして連携し、地域として総合力を発揮することができるならば、国内においては有数の経済圏として、また海外においてもリーダーシップを発揮することができるのではなかろうか」という都市創生の方向を問うもの。

以上の講義をとおして、地方におけるイノベーションの実状を理解し、都市創生の方向性について自身の考えを提案できるようにする。また当該授業における到達目標は、次のとおりである。

《高度な専門的知識・技能》都市の実状を定性的かつ定量的に分析する専門的知識を学ぶ。

《高い問題解決能力と表現力》都市の実状を定性的かつ定量的に分析し、適宜数学的手法を活用しながら課題を解決し要因を見出すことができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》実現性を踏まえた具体的な政策を提言することができる。

## 教科書 /Textbooks

『イノベーション構造と都市創生』（吉村英俊）海鳥社 2,625円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	地域産業・科学技術政策の変遷
第2回	北九州市の産業再生の軌跡～産業支援基盤の充実強化による地域産業の高度化
第3回	北部九州地域の産業とイノベーションの現状
第4回	北九州市のベンチャー企業及び研究開発型企業の現状と課題
第5回	地域イノベーション構造の解明
第6回	新規事業展開における都市選択
第7・8回	イノベーションを担う人材の吸引 <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の成長とイノベーションを担う人材の関係</li> <li>・イノベーションを担う人材の就業意識</li> <li>・イノベーションを担う人材が評価する都市の特性・機能</li> </ul>
第9回	都心に期待される機能
第10～12回	創造都市形成の方途 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の都市にみる創造都市形成の現状</li> <li>・海外の都市にみる創造都市形成の現状</li> <li>・北九州学術研究都市の現状</li> </ul>
第13回	イノベーション促進に向けた都市連携
第14・15回	北部九州地域としての総合力形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北部九州地域のポテンシャル</li> <li>・福北連携による地域のハブ形成</li> </ul>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。  
討論やレポートなどにより総合的に評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書や配布した参考文献を読んでおくこと。また講義後は、適宜レポートを課す。

# 地域イノベーション研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 都市社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 都市を社会学的に分析するための専門的知識を習得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 都市の課題を社会学的な観点から分析し解決に向けた政策を構想する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市社会研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

文献レビュー（テキスト批評）を通して、都市社会学の理論と分析方法について理解を深める。文献は、なるべく受講生の専門にそよう配慮する。なお、授業は演習形式も交えて行う。

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門知識・技能 >

都市社会学に関する概念や理論枠組について理解することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

都市における社会現象について、自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

自らの興味関心に即して文献を調べレポートを作成できる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

文献リストを用意し、最初の授業で決定する。なるべく受講生の研究領域・テーマ・関心にそったものを選ぶ。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 目的・進め方・テキストの選定
- 第2回 都市社会学の理論的潮流
- 第3回 テキスト批評
- 第4回 テキスト批評
- 第5回 テキスト批評
- 第6回 テキスト批評
- 第7回 テキスト批評
- 第8回 テキスト批評
- 第9回 テキスト批評
- 第10回 テキスト批評
- 第11回 テキスト批評
- 第12回 テキスト批評
- 第13回 テキスト批評
- 第14回 テキスト批評
- 第15回 まとめ

## 都市社会研究 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート（70%）と授業の事前・事後学習が授業への取り組みにどの程度反映されているか（30%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献を事前に読んでおくこと。（必要な学習時間の目安は、120分以上。）

受講者（報告者）は、自分が紹介する文献について（1）概要、（2）内容要約、（3）論点の整理、（4）議論を記したレジюмеを用意すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業経営研究 【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 地域経済の担い手である企業の経営構造に関する基礎的専門的知識を学ぶ。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 地域社会の活性化のために学んだ知識を活用することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

企業経営研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

国際経営比較の観点から、多国籍企業の経営国際化の背後にある論理を探りながら、特に東アジア新興工業国の持続的高成長を牽引してきたアジア財閥系企業を対象に、その経営構造を押さえた上、経営国際化の特徴の分析にウェイトを置く。深い相互依存関係にある東アジア地域の経済発展のダイナミズムを日本の地域経済活性化のために如何に取り込み、活かすかとの問題意識を持ちながら、フィールドワークを続けてきたが、研究成果物の参考文献としての使用と共に、現地調査で得た一次資料や情報を共有する考えである。聴講者の皆さんにも同様の姿勢で臨んで頂き、深い洞察力と分析力を養っていききたい。授業計画に従って、討議形式で進める。

到達目標は以下にあげておく。

《高度な専門的知識・技能》

○地域社会の担い手である企業の経営構造に関する基礎的専門的知識を学ぶ。

《高い問題解決能力と表現力》

○地域社会の活性化と問題解決のために学んだ知識を活用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

## 教科書 /Textbooks

院生と協議して決める

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 岩崎育夫著 『現在アジア政治経済学入門』 東洋経済
- 牧戸孝郎編著 『岐路に立つ韓国企業経営』 名古屋大学出版会
- 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社
- 王効平他著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会
- 久保巖著 『世界財閥マップ』 平凡社
- 末廣昭著 『アジアのファミリービジネス』 名古屋大学出版会
- 末廣昭著 『キャッチアップ型工業化論』 名古屋大学出版会
- 王効平が参画してきた調査研究プロジェクトの報告書

# 企業経営研究 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講院生の研究テーマ・関心領域の確認、本科目の狙い、進捗方法に関する説明、テキストの決定
- 第2回 アジア型企業経営に関する概説
- 第3回 企業制度分析の視点
- 第4回 経営システム分析の視点
- 第5回 地域上場企業の分類・整理
- 第6回 韓国財閥系企業の経営制度
- 第7回 韓国系企業の経営システム
- 第8回 華人財閥系企業の経営制度
- 第9回 華人財閥系企業の経営システム
- 第10回 日本の同族企業の経営制度
- 第11回 日本の同族企業の経営システム
- 第12回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論I
- 第13回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論II
- 第14回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論III
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回用の必読資料を事前に指定する予定  
学習支援フォルダーを積極的に活用すること

## 履修上の注意 /Remarks

指定参考文献・配布資料を熟読すること  
各種関連資料を進んで収集すること  
問題意識をもち、それを討議に反映させること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

通常少人数参加のため、ゼミ形式で進める予定で、長時間発表の心の準備をして頂きたい  
研究者としての個性、強みを存分に出して頂きたい

## キーワード /Keywords



# 都市情報工学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○ 地域社会の現実的な諸問題を解決する様々な数理的な方法の技能を身につける。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市情報工学研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代社会では、氾濫する情報の中で予測が難しいものになりつつあります。情報の不確実な性質を論じ、その中で経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考えます。本演習では、ファジィ関係表現をもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析します。

《高度な専門的知識・技能》

経済や経営の観点から、データを分析しそれに基づいて適正に判断できる。

《高い問題解決能力と表現力》

経営的意思決定において自分自身の研究テーマとの比較の観点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり図表を作ることができる。先行研究を第三者の観点でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

- S.M.Ross 'Introduction to Probability Models', Academic Press
- G.J.Klir & Bo Yuan 'Fuzzy Systems and Fuzzy Logic: Theory and Application', Prentice Hall

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報に関する不確実性【蓋然性、偶然性】【あいまい性】【不確実性と不確定性】
- 2回 同上
- 3回 時系列の情報システムにおける不確実性【確率過程】【ファジィ・システム】【複雑系システム】
- 4回 同上
- 5回 不確実性を伴うシステムの数理的表現【マルコフ過程】【ファジィ推論システム】【カオス・システム】
- 6回 同上
- 7回 不確実性環境下での個人やグループ全体としての意思決定の方法【効用理論】【可能性理論】【必然性理論】
- 7回 同上
- 9回 客観的数理的評価法と主観的数理的評価法【平均評価】【積分評価】【主観的積分評価】【順序付け法】【多目的評価法】
- 10回 同上
- 11回 不確実性環境下での時間を伴う意思決定の方法【動的計画法】【最適性の原理】【マルチンゲール法】
- 12回 同上
- 13回 数理工学的計算法【差分近似法】【モンテカルロ・シミュレーション】【変分法】
- 14回 同上
- 15回 不確実環境での人工知能的意思決定法【preferences】【aggregation】【学習モデル】

# 都市情報工学研究【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか(70%)と期末レポート(30%)。シラバスの達成目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、指定された範囲の予習(60分)と授業内容の復習(60分)を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

[事前・事後学習の内容]

授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までにまとめておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

不確実性、意思決定法

# 社会心理研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 地域の諸課題に関わる社会心理学の基礎的な専門知識を身に付ける。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 地域社会における課題を社会心理学の切り口からとらえ、意欲的に分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会心理研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会心理学的に研究するために必要な体系的な知識や研究方法の枠組みを提供し、人間関係の様々な問題に共通して関わる基礎的な機制を議論する。現代社会において研究の対象となる現象は幅広いが、中でも特に、個人内の心理過程でアイデンティティや自己観との関わりから生じる様々な葛藤が、対人関係、集団行動等の中でどのように顕在化するか、また、そのような葛藤を解決させるために生じる個人の行動が、対人関係や集団行動等にどのような変化を起こしうるのが、というテーマを中心とする。社会心理の基礎理論に重点を置きつつも、受講生各自の研究テーマの発展に寄与するよう考慮した授業とする。

### DPに基づく到達目標

- ( 高度な専門的知識・技能 )
- 社会心理学の研究法の主な特徴と社会心理学の複数の研究群の内容を理解している。
- ( 高い問題解決能力と表現力 )
- 各受講生が関心を持つ地域社会におけるある特定の課題との関連を理解し、説明できる。
- ( 高い倫理観に基づいた自律的行動力 )
- 受け身ではなく主体的に学び、議論に参加する。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～ 1 4 回文献の紹介、もしくは自身が進めている研究についての発表
- 1 5 回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告とディスカッション...100% によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 社会心理研究 【昼】

キーワード /Keywords

# 地域臨床教育研究【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題に関する基礎的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○ 子育て支援や青少年問題に実践的に取り組むために求められる技能を修得する。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域臨床教育研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、以下の到達目標に基づき、授業を進めていきたい。

《高度な専門的知識・技能》

地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題に関する基礎的知識と子育て支援や青少年問題に実践的に取り組むために求められる技能を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題と子育て支援や青少年問題を解決する能力を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題に関する基礎的知識と子育て支援や青少年問題に実践的に取り組むために求められる技能を修得する。

また、その目標を実現していくために、本授業では、1. 児童虐待問題への理解と援助・介入について、2. 知的障害、「発達障害」を持つ子ども・青年への自立支援、3. 現代社会における青少年問題の発生機序とその克服に向けての援助・介入について、などのテーマについて、参加者の実践フィールドや興味・関心に合わせて検討を進めていく。

## 教科書 /Textbooks

テキスト等については、参加者と相談して決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献については授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読
- 3回 文献購読
- 4回 文献購読
- 5回 文献購読
- 6回 文献購読
- 7回 文献購読
- 8回 文献購読
- 9回 個人研究発表
- 10回 個人研究発表
- 11回 個人研究発表
- 12回 事例報告
- 13回 事例報告
- 14回 事例報告
- 15回 全体のまとめ

# 地域臨床教育研究【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加者の報告と意見交流、また、博士論文構想の検討を通して、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

購読文献については必ず事前に読み込み、疑問点などを明確にしておくこと

## 履修上の注意 /Remarks

実践現場におられる方は是非とも事例・実践報告の準備をお願いしたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

青少年問題の発生機序、児童虐待問題、発達障害・知的障害

# 地域イノベーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	○ 都市の実状を定性的かつ定量的に分析し、適宜数学的手法を活用しながら課題及び要因を見出す。その後、実現性を踏まえた具体的な政策を提言する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域イノベーション研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

わが国経済のグローバル化と地方分権化、いわゆるグローバル化が進展する中であって、地域の果たす役割はこれまで以上に大きくなってきている。地域は中央政府による外発的な支援に期待することなく、自らの地域に蓄積する多様な資源及び特性を活用した内発的な発展を志向していかなければならない。この内発的な発展に向けた方策の一つに、“イノベーションの振興”がある。以下の2つの問題意識のもと、講義を行っていきたい。

一つ目は「どのようにしたら地域においてイノベーションが促進されるのか。これまで各地域で展開されてきた産業支援機関の整備や支援制度の充実がほぼやり尽くされた感があり、今一度原点に戻って、その構造解明を図り、方策を講じる必要があるのではなかろうか」というイノベーション構造に起因するもの。

二つ目は「地域には拠点となる都市が散在し、それぞれが県域等の中心になって地域の発展をリードしている。これらの都市が特徴を活かして連携し、地域として総合力を発揮することができるならば、国内においては有数の経済圏として、また海外においてもリーダーシップを発揮することができるのではなかろうか」という都市創生の方向を問うもの。

以上の講義をとおして、地方におけるイノベーションの実状を理解し、都市創生の方向性について自身の考えを提案できるようにする。また当該授業における到達目標は、次のとおりである。

《高度な専門的知識・技能》都市の実状を定性的かつ定量的に分析する専門的知識を学ぶ。

《高い問題解決能力と表現力》都市の実状を定性的かつ定量的に分析し、適宜数学的手法を活用しながら課題を解決し要因を見出すことができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》実現性を踏まえた具体的な政策を提言することができる。

## 教科書 /Textbooks

『イノベーション構造と都市創生』（吉村英俊）海鳥社 2,625円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜紹介する。

# 地域イノベーション研究【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	地域産業・科学技術政策の変遷
第2回	北九州市の産業再生の軌跡～産業支援基盤の充実強化による地域産業の高度化
第3回	北部九州地域の産業とイノベーションの現状
第4回	北九州市のベンチャー企業及び研究開発型企業の現状と課題
第5回	地域イノベーション構造の解明
第6回	新規事業展開における都市選択
第7・8回	イノベーションを担う人材の吸引 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市の成長とイノベーションを担う人材の関係</li> <li>・ イノベーションを担う人材の就業意識</li> <li>・ イノベーションを担う人材が評価する都市の特性・機能</li> </ul>
第9回	都心に期待される機能
第10～12回	創造都市形成の方途 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内の都市にみる創造都市形成の現状</li> <li>・ 海外の都市にみる創造都市形成の現状</li> <li>・ 北九州学術研究都市の現状</li> </ul>
第13回	イノベーション促進に向けた都市連携
第14・15回	北部九州地域としての総合力形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部九州地域のポテンシャル</li> <li>・ 福北連携による地域のハブ形成</li> </ul>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。  
 討論やレポートなどにより総合的に評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書や配布した参考文献を読んでおくこと。また講義後は、適宜レポートを課す。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 福祉社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○ 社会福祉事業者が直面する地域的課題を解決するための視点を身につける。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 現代の社会福祉政策のあり方を吟味し、社会福祉援助の枠組みを分析・検討できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

福祉社会研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、社会福祉とは何かについての原理論と、社会福祉の援助論について深めていく。現代の社会福祉政策や社会福祉の実践（支援）は社会福祉とは何かという原理（論）が軽視されている。政策 - 実践（支援） - 対象という三項関係を踏まえながら社会福祉の原理と援助のあり方について検討を深める。

## 教科書 /Textbooks

指定しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時指定する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 社会福祉の基礎的理論に関する講義
- 4～8回 社会福祉の原理論に関する文献購読と討論 - 1960年代から70年代を中心に
- 9～13回 社会福祉の援助論に関する文献購読と討論 - 1960年代から80年代を中心に
- 14～15回 まとめの討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講読文献に関するレポートおよび報告内容を総合して判断するが、特に自らの考えが常に明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては「社会福祉とは何か」についての原理論に関する指定文献を精読すること。合わせて近代経済学の理論についても指定文献を精読すること。事後学習としては授業で理解できなかった事項について指定する文献を中心に精読すること。

## 履修上の注意 /Remarks

一定量の文献購読を必要とするので覚悟を持つこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 司法福祉研究 【昼】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 司法福祉に関する理論、方法、視座についての専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 司法領域と福祉領域の関係性に関する構造を分析し、実践的な政策提言に繋げることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

司法福祉研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、主に心理社会的及び福祉の視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

### 到達目標

《高度な専門的知識・技能》

司法福祉に関する理論、方法、視座についての専門的知識を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

司法領域と福祉領域の関係性に関する構造を分析し、実践的な政策提言に繋げることができる。

## 教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ぶー総合的支援による人間回復への途」( ミネルヴァ書房 2013年 )

大曾根寛編「福祉政策の課題ー一人権保障への道ー」( 放送大学教育振興会 2014 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の概要

第2回 福祉政策と人権保障

第3回 犯罪や非行に対するとらえ方

第4回 歴史の中の司法福祉

第5回ー7回 司法福祉の理論と実践

第8回ー12回 司法福祉に関わる制度と組織

第13回ー14回 司法福祉の国際比較

第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30% により、シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。

基本的には参加型の形態をとりつつ進めて行く。

## 履修上の注意 /Remarks

# 司法福祉研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 都市環境政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境生命工学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 都市の環境管理・改善に必要な政策に関する専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○ 都市環境問題に関わる現実の諸問題に、身につけた専門的知識が適用可能であることを発見する。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市環境政策研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

北九州市をはじめとする日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するアジア等の諸国の先行モデルとして高い移転可能性を持つと言える。途上国の諸都市がそれぞれの置かれた状況を踏まえ、日本の環境対策の成功と失敗の経験を教訓として活かしていくことができれば、日本がかつて経験したような深刻な公害問題を回避することが可能である。さらに、後発性の有利さを活かすことによって、今後、効率的な環境対策の実施を行うことも可能である。そこで、環境問題の発生メカニズムとその対策について、日本及びアジアの諸都市の比較研究を行う。さらにアジアを中心とした途上国への移転可能性について考察する。

《高度な専門的知識・技能》

都市の環境管理・改善に必要な政策に関する専門知識を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

都市環境問題に関わる現実の諸問題を解決する能力を修得する。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

勝原健『東アジアの開発と環境問題：日本の地方都市の経験と新たな挑戦』勁草書房

土木学会環境システム委員会編『環境システム』共立出版

日本の大気汚染経験検討委員会編『日本の大気汚染経験』ジャパンタイムス

日本水環境学会編『日本の水環境行政』ぎょうせい

『Environmental Performance Reviews: Japan』OECD

『Future Cities: Dynamics and Sustainability』Kluwer Academic Publishers

ほか多数（講義中に指示する）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～3回 日本の公害対策経験と北九州モデル

第4～6回 東アジア都市の都市環境管理の比較と北九州モデルの適用可能性

第7～9回 都市環境管理の方向と評価基盤

第10～12回 新たな都市環境政策の潮流

第13～14回 事例研究

第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

積極的な参加 20%

事例報告及び討論 30%

期末レポート 50%

# 都市環境政策研究【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを授業の事前事後に学習し、準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

各回授業で配付するレジュメをよく読み込んでおくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

公害対策、環境計画、都市環境マネジメント、低炭素・循環型社会

# 都市政策論研究【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 都市政策に関する理論・分析手法・実践に係わる専門知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 都市政策に係わる実際の課題を抽出・分析し、実践的な政策提言に繋げることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市政策論研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義のテーマは「都市政策の経済分析」であり、そのねらいは都市経済学の紹介と都市政策の分析・評価を試みることにある。したがって、その個別具体的な内容として「都市がなぜ存在するのか」という基本問題に対する経済理論的な解明に加えて、「市場の失敗」や「政府の失敗」についての基礎的理解を深める。また、その応用として各種の都市政策、例えば土地問題、住宅問題、都市財政、都市交通、環境問題等に着目し、その有効範囲と限界について考察する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

都市政策に関する理論・分析手法・実践に係わる専門的知識を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

都市政策に係わる実際の課題を抽出・分析し、実践的な政策提言に繋げることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

都市政策に関わる倫理的な側面に深い理解を持ち、自ら政策分析を行い提言をまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する（英文図書の場合もあり）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Philip McCann, Modern Urban and Regional Economics, Oxford University Press (2013)

金本良嗣・蓮池勝人・藤原徹著『政策評価ミクロモデル』東洋経済新報社（2006）

上田考行編著『Excelで学ぶ地域・都市経済分析』コロナ社(2010)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション・ガイダンス
- 2回 Introduction and Industrial Location
- 3回 Spatial Distribution of Activities
- 4回 Spatial Structure of the Urban Economy
- 5回 Urban Policy Analysis
- 6回 Advanced Topics on Urban Economic Analysis
- 7回 Regional Specialization and Trade I
- 8回 Regional Specialization and Trade II
- 9回 Regional Specialization and Trade III
- 10回 Term Paper Topics Presentation and Discussion
- 11回 Labor Market Analysis
- 12回 Regional Growth
- 13回 Regional Policy Analysis
- 14回 Advanced Topics on Regional Economic Analysis
- 15回 Term Paper Presentation

# 都市政策論研究【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内討論、20%：期末レポート発表、30%：期末レポートの内容、50% に基づいてシラバスの到達目標の達成度を加味して評価を行う

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当該授業に指定されている論文・書籍の十分な理解はもとより、自ら関連する項目について調べる。授業後は、授業内容の深い理解に努めるとともに、もし不明点があればそれを整理し自ら調べる。

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識は必須、および微分積分と線形代数、計量経済学の知識を前提とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

都市・地域の計量経済分析を理論・手法・実際の側面から学習する。広範な知識と興味があれば都市や地域を多くの側面から分析することが可能となる。

## キーワード /Keywords

都市経済学、地域経済学、地域科学、都市政策

## 統計学研究【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科  
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	地域の数量的分析のための統計理論を習得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○	地域社会に関連する統計情報を整理し、課題に沿った統計分析ができる。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

統計学研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。最後に、回帰分析の理論と実際を学ぶ。

DPに基づく3つの到達目標

「高度な専門的知識・技能」：統計的に高度な分析ができるようになる。

「高い問題解決能力と表現力」：社会・経済における問題を発見し、統計的に分析することによって問題解決を図る。

「高い倫理観に基づいた自立的行動力」：社会・経済における問題を倫理的な観点から考察し、高邁な精神で問題に取り組むことができる。

## 教科書 /Textbooks

東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会，1991

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社，2013

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 統計学の基礎
- 2 1次元のデータ
- 3 2次元のデータ
- 4 確率
- 5 確率変数
- 6 確率分布 1
- 7 確率分布 2
- 8 多次元の確率分布
- 9 大数の法則と中心極限定理
- 10 標本分布
- 11 正規分布からの標本
- 12 推定
- 13 仮説検定
- 14 回帰分析 1
- 15 回帰分析 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読すること。

事後学習：教科書の問題を解くこと。



# 統計学研究【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

高校数学Cの確率統計を既習していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、回帰分析

# 都市社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
SOC710S		◎	△	△
科目名	都市社会研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

文献レビュー（テキスト批評）を通して、都市社会学の理論と分析方法について理解を深める。文献は、なるべく受講生の専門にそよう配慮する。なお、授業は演習形式も交えて行う。

DPに基づく3つの到達目標

<高度な専門知識・技能>

都市社会学に関する概念や理論枠組について理解することができる。

<高い問題解決能力と表現力>

都市における社会現象について、自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

<高い倫理観に基づいた自律的行動力>

自らの興味関心に即して文献を調べレポートを作成できる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

文献リストを用意し、最初の授業で決定する。なるべく受講生の研究領域・テーマ・関心にそったものを選ぶ。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 目的・進め方・テキストの選定
- 第2回 都市社会学の理論的潮流
- 第3回 テキスト批評
- 第4回 テキスト批評
- 第5回 テキスト批評
- 第6回 テキスト批評
- 第7回 テキスト批評
- 第8回 テキスト批評
- 第9回 テキスト批評
- 第10回 テキスト批評
- 第11回 テキスト批評
- 第12回 テキスト批評
- 第13回 テキスト批評
- 第14回 テキスト批評
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート（70%）と授業の事前・事後学習が授業への取り組みにどの程度反映されているか（30%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

# 都市社会研究 【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献を事前に読んでおくこと。(必要な学習時間の目安は、120分以上。)

受講者(報告者)は、自分が紹介する文献について(1)概要、(2)内容要約、(3)論点の整理、(4)議論を記したレジユメを用意すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 企業経営研究 【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS710S		◎	△	△
科目名		企業経営研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

国際経営比較の観点から、多国籍企業の経営国際化の背後にある論理を探りながら、特に東アジア新興工業国の持続的高成長を牽引してきたアジア財閥系企業を対象に、その経営構造を押さえた上、経営国際化の特徴の分析にウェイトを置く。深い相互依存関係にある東アジア地域の経済発展のダイナミズムを日本の地域経済活性化のために如何に取り込み、活かすかとの問題意識を持ちながら、フィールドワークを続けてきたが、研究成果物の参考文献としての使用と共に、現地調査で得た一次資料や情報を共有する考えである。聴講者の皆さんにも同様の姿勢で臨んで頂き、深い洞察力と分析力を養っていききたい。授業計画に従って、討議形式で進める。

到達目標は以下にあげておく。

《高度な専門的知識・技能》

○地域社会の担い手である企業の経営構造に関する基礎的専門的知識を学ぶ。

《高い問題解決能力と表現力》

○地域社会の活性化と問題解決のために学んだ知識を活用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

## 教科書 /Textbooks

院生と協議して決める

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

岩崎育夫著 『現在アジア政治経済学入門』 東洋経済  
 牧戸孝郎編著 『岐路に立つ韓国企業経営』 名古屋大学出版会  
 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社  
 王効平他著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会  
 久保蔵著 『世界財閥マップ』 平凡社  
 末廣昭著 『アジアのファミリービジネス』 名古屋大学出版会  
 末廣昭著 『キャッチアップ型工業化論』 名古屋大学出版会  
 王効平が参画してきた調査研究プロジェクトの報告書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講院生の研究テーマ・関心領域の確認、本科目の狙い、進捗方法に関する説明、テキストの決定
- 第2回 アジア型企業経営に関する概説
- 第3回 企業制度分析の視点
- 第4回 経営システム分析の視点
- 第5回 地域上場企業の種類・整理
- 第6回 韓国財閥系企業の経営制度
- 第7回 韓国系企業の経営システム
- 第8回 華人財閥系企業の経営制度
- 第9回 華人財閥系企業の経営システム
- 第10回 日本の同族企業の経営制度
- 第11回 日本の同族企業の経営システム
- 第12回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論I
- 第13回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論II
- 第14回 老舗企業の比較研究調査を踏まえた議論III
- 第15回 まとめ

# 企業経営研究 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回用の必読資料を事前に指定する予定  
学習支援フォルダーを積極的に活用すること

## 履修上の注意 /Remarks

指定参考文献・配布資料を熟読すること  
各種関連資料を進んで収集すること  
問題意識をもち、それを討議に反映させること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

通常少人数参加のため、ゼミ形式で進める予定で、長時間発表の心の準備をして頂きたい  
研究者としての個性、強みを存分に出して頂きたい

## キーワード /Keywords

# 都市情報工学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
MTH750S	◎	△	△
科目名	都市情報工学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

現代社会では、氾濫する情報の中で予測が難しいものになりつつあります。情報の不確実な性質を論じ、その中で経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考えます。本演習では、ファジイ関係表現をもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析します。

### 《高度な専門的知識・技能》

経済や経営の観点から、データを分析しそれに基づいて適正に判断できる。

### 《高い問題解決能力と表現力》

経営的意思決定において自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

### 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり図表を作ることができる。先行研究を第三者の観点でまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

- S.M.Ross 'Introduction to Probability Models', Academic Press
- G.J.Klir & Bo Yuan 'Fuzzy Systems and Fuzzy Logic: Theory and Application', Prentice Hall

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報に関する不確実性【蓋然性、偶然性】【あいまい性】【不確実性と不確定性】
- 2回 同上
- 3回 時系列の情報システムにおける不確実性【確率過程】【ファジイ・システム】【複雑系システム】
- 4回 同上
- 5回 不確実性を伴うシステムの数理的表現【マルコフ過程】【ファジイ推論システム】【カオス・システム】
- 6回 同上
- 7回 不確実性環境下での個人やグループ全体としての意思決定の方法【効用理論】【可能性理論】【必然性理論】
- 7回 同上
- 9回 客観的数理的評価法と主観的数理的評価法【平均評価】【積分評価】【主観的積分評価】【順序付け法】【多目的評価法】
- 10回 同上
- 11回 不確実性環境下での時間を伴う意思決定の方法【動的計画法】【最適性の原理】【マルチンゲール法】
- 12回 同上
- 13回 数理工学的計算法【差分近似法】【モンテカルロ・シミュレーション】【変分法】
- 14回 同上
- 15回 不確実環境での人工知能的意思決定法【preferences】【aggregation】【学習モデル】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか(70%)と期末レポート(30%)。シラバスの達成目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、指定された範囲の予習(60分)と授業内容の復習(60分)を行うこと。

# 都市情報工学研究 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

[事前・事後学習の内容]  
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までにまとめておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

不確実性、意思決定法

# 社会心理研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
PSY710S	◎	△	△
科目名	社会心理研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会心理学的に研究するために必要な体系的な知識や研究方法の枠組みを提供し、人間関係の様々な問題に共通して関わる基礎的な機制を議論する。現代社会において研究の対象となる現象は幅広いが、中でも特に、個人内の心理過程でアイデンティティや自己観との関わりから生じる様々な葛藤が、対人関係、集団行動等の中でどのように顕在化するか、また、そのような葛藤を解決させるために生じる個人の行動が、対人関係や集団行動等にどのような変化を起こしうるのか、というテーマを中心とする。社会心理の基礎理論に重点を置きつつも、受講生各自の研究テーマの発展に寄与するよう考慮した授業とする。

### DPに基づく到達目標

(高度な専門的知識・技能)

社会心理学の研究法の主な特徴と社会心理学の複数の研究群の内容を理解している。

(高い問題解決能力と表現力)

各受講生が関心を持つ地域社会におけるある特定の課題との関連を理解し、説明できる。

(高い倫理観に基づいた自律的行動力)

受け身ではなく主体的に学び、議論に参加する。

## 教科書 /Textbooks

特に定めない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～ 1 4 回文献の紹介、もしくは自身が進めている研究についての発表
- 1 5 回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告とディスカッション...100% によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 地域臨床教育研究【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
SOC711S		◎	△	△
科目名	地域臨床教育研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、以下の到達目標に基づき、授業を進めていきたい。

《高度な専門的知識・技能》  
 地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題に関する基礎的知識と子育て支援や青少年問題に実践的に取り組むために求められる技能を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》  
 地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題と子育て支援や青少年問題を解決する能力を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》  
 地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題に関する基礎的知識と子育て支援や青少年問題に実践的に取り組むために求められる技能を修得する。

また、その目標を実現していくために、本授業では、1．児童虐待問題への理解と援助・介入について、2．知的障害、「発達障害」を持つ子ども・青年への自立支援、3．現代社会における青少年問題の発生機序とその克服に向けての援助・介入について、などのテーマについて、参加者の実践フィールドや興味・関心に合わせて検討を進めていく。

## 教科書 /Textbooks

テキスト等については、参加者と相談して決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献については授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読
- 3回 文献購読
- 4回 文献購読
- 5回 文献購読
- 6回 文献購読
- 7回 文献購読
- 8回 文献購読
- 9回 個人研究発表
- 10回 個人研究発表
- 11回 個人研究発表
- 12回 事例報告
- 13回 事例報告
- 14回 事例報告
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

参加者の報告と意見交流、また、博士論文構想の検討を通して、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

購読文献については必ず事前に読み込み、疑問点などを明確にしておくこと

# 地域臨床教育研究【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

実践現場におられる方は是非とも事例・実践報告の準備をお願いしたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

青少年問題の発生機序、児童虐待問題、発達障害・知的障害

# 地域イノベーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
RDE710S		◎	△	△
科目名	地域イノベーション研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

わが国経済のグローバル化と地方分権化、いわゆるグローバル化が進展する中であって、地域の果たす役割はこれまで以上に大きくなってきている。地域は中央政府による外発的な支援に期待することなく、自らの地域に蓄積する多様な資源及び特性を活用した内発的な発展を志向していかなければならない。この内発的な発展に向けた方策の一つに、“イノベーションの振興”がある。以下の2つの問題意識のもと、講義を行ってきたい。

一つ目は「どのようにしたら地域においてイノベーションが促進されるのか。これまで各地域で展開されてきた産業支援機関の整備や支援制度の充実がほぼやり尽くされた感があり、今一度原点に戻って、その構造解明を図り、方策を講じる必要があるのではなからうか」というイノベーション構造に起因するもの。

二つ目は「地域には拠点となる都市が散在し、それぞれが県域等の中心になって地域の発展をリードしている。これらの都市が特徴を活かして連携し、地域として総合力を発揮することができるならば、国内においては有数の経済圏として、また海外においてもリーダーシップを発揮することができるのではなからうか」という都市創生の方向を問うもの。

以上の講義をとおして、地方におけるイノベーションの実状を理解し、都市創生の方向性について自身の考えを提案できるようにする。また当該授業における到達目標は、次のとおりである。

- 《高度な専門的知識・技能》都市の実状を定性的かつ定量的に分析する専門的知識を学ぶ。
- 《高い問題解決能力と表現力》都市の実状を定性的かつ定量的に分析し、適宜数学的手法を活用しながら課題を解決し要因を見出すことができる。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》実現性を踏まえた具体的な政策を提言することができる。

## 教科書 /Textbooks

『イノベーション構造と都市創生』（吉村英俊）海鳥社 2,625円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜紹介する。

# 地域イノベーション研究 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	地域産業・科学技術政策の変遷
第2回	北九州市の産業再生の軌跡～産業支援基盤の充実強化による地域産業の高度化
第3回	北部九州地域の産業とイノベーションの現状
第4回	北九州市のベンチャー企業及び研究開発型企業の現状と課題
第5回	地域イノベーション構造の解明
第6回	新規事業展開における都市選択
第7・8回	イノベーションを担う人材の吸引 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市の成長とイノベーションを担う人材の関係</li> <li>・ イノベーションを担う人材の就業意識</li> <li>・ イノベーションを担う人材が評価する都市の特性・機能</li> </ul>
第9回	都心に期待される機能
第10～12回	創造都市形成の方途 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内の都市にみる創造都市形成の現状</li> <li>・ 海外の都市にみる創造都市形成の現状</li> <li>・ 北九州学術研究都市の現状</li> </ul>
第13回	イノベーション促進に向けた都市連携
第14・15回	北部九州地域としての総合力形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部九州地域のポテンシャル</li> <li>・ 福北連携による地域のハブ形成</li> </ul>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。  
 討論やレポートなどにより総合的に評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書や配布した参考文献を読んでおくこと。また講義後は、適宜レポートを課す。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 福祉社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
SOW740S	◎	△	△
科目名	福祉社会研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連  
 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、社会福祉とは何かについての原理論と、社会福祉の援助論について深めていく。現代の社会福祉政策や社会福祉の実践（支援）は社会福祉とは何かという原理（論）が軽視されている。政策 - 実践（支援） - 対象という三項関係を踏まえながら社会福祉の原理と援助のあり方について検討を深める。

## 教科書 /Textbooks

指定しない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適時指定する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 社会福祉の基礎的理論に関する講義
- 4～8回 社会福祉の原理論に関する文献購読と討論 - 1960年代から70年代を中心に
- 9～13回 社会福祉の援助論に関する文献購読と討論 - 1960年代から80年代を中心に
- 14～15回 まとめの討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講読文献に関するレポートおよび報告内容を総合して判断するが、特に自らの考えが常に明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては「社会福祉とは何か」についての原理論に関する指定文献を精読すること。合わせて近代経済学の理論についても指定文献を精読すること。事後学習としては授業で理解できなかった事項について指定する文献を中心に精読すること。

## 履修上の注意 /Remarks

一定量の文献購読を必要とするので覚悟を持つこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 司法福祉研究 【昼】

担当者名 /Instructor 深谷 裕 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
SOW741S	◎	△	△
科目名	司法福祉研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

### 到達目標

- 《高度な専門的知識・技能》  
司法福祉に関する理論、方法、視座についての専門的知識を修得する。
- 《高い問題解決能力と表現力》  
司法領域と福祉領域の関係性に関する構造を分析し、実践的な政策提言に繋げることができる。

## 教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ぶー総合的支援による人間回復への途」(ミネルヴァ書房 2013年)
- 大曾根寛編「福祉政策の課題ー人権保障への道ー」(放送大学教育振興会 2014)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 福祉政策と人権保障
- 第3回 犯罪や非行に対するとらえ方
- 第4回 歴史の中の司法福祉
- 第5回ー7回 司法福祉の理論と実践
- 第8回ー12回 司法福祉に関わる制度と組織
- 第13回ー14回 司法福祉の国際比較
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%により、シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。  
基本的には参加型の形態をとりつつ進めて行く。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 都市環境政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境生命工学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ENV720S	◎	△	△
科目名	都市環境政策研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

北九州市をはじめとする日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するアジア等の諸国の先行モデルとして高い移転可能性を持つと言える。途上国の諸都市がそれぞれの置かれた状況を踏まえ、日本の環境対策の成功と失敗の経験を教訓として活かしていくことができれば、日本がかつて経験したような深刻な公害問題を回避することが可能である。さらに、後発性の有利さを活かすことによって、今後、効率的な環境対策の実施を行うことも可能である。そこで、環境問題の発生メカニズムとその対策について、日本及びアジアの諸都市の比較研究を行う。さらにアジアを中心とした途上国への移転可能性について考察する。

- 《高度な専門的知識・技能》  
都市の環境管理・改善に必要な政策に関する専門知識を修得する。
- 《高い問題解決能力と表現力》  
都市環境問題に関わる現実の諸問題を解決する能力を修得する。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 勝原健『東アジアの開発と環境問題：日本の地方都市の経験と新たな挑戦』勁草書房
  - 土木学会環境システム委員会編『環境システム』共立出版
  - 日本の大気汚染経験検討委員会編『日本の大気汚染経験』ジャパンタイムス
  - 日本水環境学会編『日本の水環境行政』ぎょうせい
  - 『Environmental Performance Reviews: Japan』OECD
  - 『Future Cities: Dynamics and Sustainability』Kluwer Academic Publishers
- ほか多数(講義中に指示する)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1～3回 日本の公害対策経験と北九州モデル
- 第4～6回 東アジア都市の都市環境管理の比較と北九州モデルの適用可能性
- 第7～9回 都市環境管理の方向と評価基盤
- 第10～12回 新たな都市環境政策の潮流
- 第13～14回 事例研究
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。
- 積極的な参加 20%
- 事例報告及び討論 30%
- 期末レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを授業の事前事後に学習し、準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

各回授業で配付するレジュメをよく読み込んでおくこと。

# 都市環境政策研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公害対策、環境計画、都市環境マネジメント、低炭素・循環型社会



# 都市政策論研究【昼】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
RDE711S		◎	△	△
科目名	都市政策論研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

本講義のテーマは「都市政策の経済分析」であり、そのねらいは都市経済学の紹介と都市政策の分析・評価を試みることにある。したがって、その個別具体的な内容として「都市がなぜ存在するのか」という基本問題に対する経済理論的な解明に加えて、「市場の失敗」や「政府の失敗」についての基礎的理解を深める。また、その応用として各種の都市政策、例えば土地問題、住宅問題、都市財政、都市交通、環境問題等に着目し、その有効範囲と限界について考察する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

都市政策に関する理論・分析手法・実践に係わる専門的知識を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

都市政策に係わる実際の課題を抽出・分析し、実践的な政策提言に繋げることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

都市政策に関わる倫理的な側面に深い理解を持ち、自ら政策分析を行い提言をまとめることができる。

## 教科書 /Textbooks

適宜指定する（英文図書の場合もあり）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

Philip McCann, Modern Urban and Regional Economics, Oxford University Press (2013)  
 金本良嗣・蓮池勝人・藤原徹著『政策評価ミクロモデル』東洋経済新報社 (2006)  
 上田考行編著『Excelで学ぶ地域・都市経済分析』コロナ社(2010)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション・ガイダンス
- 2回 Introduction and Industrial Location
- 3回 Spatial Distribution of Activities
- 4回 Spatial Structure of the Urban Economy
- 5回 Urban Policy Analysis
- 6回 Advanced Topics on Urban Economic Analysis
- 7回 Regional Specialization and Trade I
- 8回 Regional Specialization and Trade II
- 9回 Regional Specialization and Trade III
- 10回 Term Paper Topics Presentation and Discussion
- 11回 Labor Market Analysis
- 12回 Regional Growth
- 13回 Regional Policy Analysis
- 14回 Advanced Topics on Regional Economic Analysis
- 15回 Term Paper Presentation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内討論、20%：期末レポート発表、30%：期末レポートの内容、50% に基づいてシラバスの到達目標の達成度を加味して評価を行う

# 都市政策論研究【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当該授業に指定されている論文・書籍の十分な理解はもとより、自ら関連する項目について調べる。授業後は、授業内容の深い理解に努めるとともに、もし不明点があればそれを整理し自ら調べる。

## 履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識は必須、および微分積分と線形代数、計量経済学の知識を前提とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

都市・地域の計量経済分析を理論・手法・実際の側面から学習する。広範な知識と興味があれば都市や地域を多くの側面から分析することが可能となる。

## キーワード /Keywords

都市経済学、地域経済学、地域科学、都市政策

# 統計学研究【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自立的行動力
ECN730S	◎	△	△
科目名	統計学研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。最後に、回帰分析の理論と実際を学ぶ。

DPに基づく3つの到達目標

「高度な専門的知識・技能」：統計的に高度な分析ができるようになる。

「高い問題解決能力と表現力」：社会・経済における問題を発見し、統計的に分析することによって問題を解決を図る。

「高い倫理観に基づいた自立的行動力」：社会・経済における問題を倫理的な観点から考察し、高邁な精神で問題に取り組むことができる。

## 教科書 /Textbooks

東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会，1991

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社，2013

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 統計学の基礎
- 2 1次元のデータ
- 3 2次元のデータ
- 4 確率
- 5 確率変数
- 6 確率分布 1
- 7 確率分布 2
- 8 多次元の確率分布
- 9 大数の法則と中心極限定理
- 10 標本分布
- 11 正規分布からの標本
- 12 推定
- 13 仮説検定
- 14 回帰分析 1
- 15 回帰分析 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読すること。

事後学習：教科書の問題を解くこと。

## 履修上の注意 /Remarks

高校数学Cの確率統計を既習していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 統計学研究 【昼】

## キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、回帰分析

# 社会福祉政策研究 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
SOW742S		◎	△	△
科目名	社会福祉政策研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

## 授業の概要 /Course Description

This course introduces basic concepts, theoretical models and empirical methods related to urban and regional analysis. It presents interdisciplinary perspective on cities and urban systems. It helps students to understand structure and dynamics of cities.

- 《高度な専門的知識・技能》  
都市構造とそのモデル分析の理論と手法に関する専門知識を身につける。
- 《高い問題解決能力と表現力》  
理論や手法を分析に利用した課題解決能力を習得する。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》  
学術的研究を背景にしたリーダーシップを発揮する能力を習得する。

## 教科書 /Textbooks

Barthelemy, Marc (2016) The Structure and Dynamics of Cities, Cambridge University Press.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Relevant book chapters and journal articles will be assigned as needed.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1. Introduction
- Class 2. Urban Systems
- Class 3. Models and methods (1)
- Class 4. Models and methods (2)
- Class 5. The spatial organization of cities (1)
- Class 6. The spatial organization of cities (2)
- Class 7. Infrastructure Networks (1)
- Class 8. Infrastructure Networks (2)
- Class 9. Mobility Patterns
- Class 10. Multimodality of cities
- Class 11. Socioeconomic aspects (1)
- Class 12. Socioeconomic aspects (2)
- Class 13. System of cities
- Class 14. Toward a new science of cities
- Class 15. Presentation of Term Papers

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Class presentation: 50%; term paper: 50%  
Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must read relevant chapters in the textbooks in advance of each class. Students are also required to make presentations in class on the materials assigned.

## 履修上の注意 /Remarks

It is preferred that students have basic knowledge of mathematics.

# 社会福祉政策研究 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I welcome the enrollment of students with a strong interest in cities and regions.

## キーワード /Keywords

Urban Analysis, Network Analysis, Transport and Mobility